



白河二中だより

NO. 28
2024. 11. 8
白河市立白河第二中学校
発行責任者 小野 聡

デジタル・シティズンシップへ

11月1日（金）、西白河PTA連絡協議会「研修会・教育講演会」が新白信ビルで開催されました。

教育講演会では、医療創生大学の中尾剛先生から「子どもたちのメディア利用の現状と危険性」という演題でお話を伺いました。中尾先生は福島県警察サイバー犯罪対策アドバイザーでもあり、たいへん興味深い話をされていました。次の3点について紹介します。

1 デジタル・シティズンシップを高める。

これまでは、インターネットの利用によって自らを危険にさらしたり、他者を害したりしないようにするための考え方や道徳上の規範を示す「情報モラル」を重視してきましたが、これからは、「デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力」であるデジタル・シティズンシップを高めることが課題であるとの話がありました。

これまでの「禁止」から、「子ども主体で考える」ことが大切だということです。

2 ネット依存への対策を。

お子さんのネット依存はどれくらいでしょうか。中尾先生は、ネット依存は短期間に深刻化するので、子ども達をよく「視て」、小さなサインを見落とさないようにしてほしいと話されました。

また、どの程度ネットに依存しているかを調べることでできるスクリーニングテストを紹介されていましたので、ご家庭でチェックされてはいかがでしょうか。ネット上で「久里浜医療センターインターネット依存度テスト」と入力すると、20の質問が出題され、回答していくと、依存度が判定されるシステムです。もしも、依存度が高いようであれば、まずは、その要因を取り除くこと、離れることが大切ですが、短絡的にゲームなどを取り上げるのではなく、他の依存を増やすことも有効だとの話がありました。



3 言語などの発達への影響を考える。

医学の論文では「メディア視聴は言葉の発達を妨げる可能性がある」との結論が多いことから、言葉の発達に重要なのは、実際のやり取りのように視線を合わせ、相手の様子を見ながら、適切なタイミングで声かけすることが大切であり、一方的なコミュニケーションでは、言語習得の貴重な時間を奪ってしまう可能性がある。

メディアを見せるのであれば、親子で一緒に見て、その内容について会話する、あるいは「後で、どんな動画だったか教えて」などと投げかけておいて、視聴後の会話につなげるなどの取組が言葉を増やすことにもつながり、絵本の読み聞かせと同じ効果があるとのことでした。確かに、文章化することにより、まとめる力の育成にもつながりますね。

「学校・警察児童生徒安全だより」（「県警察本部少年女性安全対策課」より）

9月中に、子どもが不審者から声をかけられる事案が18件も発生したとの記事が掲載されました。暗くなる時間も早くなりましたので、学校においても下校時刻を守り、子ども達を安全に帰宅させたいと思います。ご家庭でも、帰り道も十分に気をつけるようお願いいたします。よろしくお祈りいたします。